

労働局長による「働き方改革」企業トップへの働きかけ

金谷ホテル株式会社



<photo by Takanori Chiba>

平成 27 年 8 月 18 日、金谷ホテル株式会社の代表取締役社長嶺康夫氏を訪問、「働き方改革」についての協力要請及び取組内容についての意見交換を行い、更なる取り組みへの推進をお願いしました。今回の要請には栃木県幹部も同行しました。



堀江栃木労働局長



嶺代表取締役社長

(対談は別館にあるヘレンケラーが宿泊されていたお部屋で行われました)

【金谷ホテル株式会社】

本 社 栃木県日光市上鉢石町 1300 番地
創 業 1 8 7 3 年 (明治 2 6 年)
代 表 者 代表取締役社長 嶺康夫
労働者数 1 5 4 人
事業内容 日本最古の西洋式リゾートホテル
明治 2 6 年築の建物が残るクラシックホテル「日光金谷ホテル」
奥日光の大自然の中に建つログハウス風リゾートホテル「中禅寺金谷ホテル」 2 つのホテルを運営
公式 HP <http://www.kanayahotel.co.jp/nkh/index.php>



嶺社長から取組の説明を受ける堀江栃木労働局長

◆金谷ホテル株式会社の取組について（嶺社長）

- 「女性の活躍推進」については、昨年、堀江局長様にもご訪問を頂き、当ホテルの井上会長へ「ポジティブアクション」普及促進についての、更なる促進要請を受けております。

女性管理職も現在2名（課長）になり、今年から始まっている今後5年の「経営改善計画」策定メンバー（金谷イレブン：11名）には3名の女性が入って頂いております。また、栃木県が企画する「働くウーマンプロジェクト」等にも積極的に参加してもらい、女性目線からの「女性のモチベーションアップを図る職場環境改善」に取り組んで頂いております。

今後は、30代、40代のスキルを持った子育て退職者が働ける環境整備もしていかなければならないと考えており、東照宮近辺には託児所がないので、施設内託児所も検討しているところです。

- 「金谷イレブン」は、これからの弊社を担う、各現場実務者メンバーにて「新経営計画策定」の為に発足させたプロジェクトです。この計画においては、営業、オペレーションの改善による収益拡大、安定的な収益基盤の醸成に加え、それを支える「従業員の物心両面の満足度の向上」を目指しております。

実は従業員満足度調査を行ったところ、「金谷ホテルに働く誇り」は全員が持っているという結果が出ているものの、反面「人事制度」に不満を感じている社員もいることがわかりました。それを受けて、金谷イレブンを中心として、若手に検討・提案してもらうようにしました。

社員ひとりひとりが意見を言えて、考える風土が少しずつではありますが出来上がってきたのかなと思っております。

いわゆる経営戦略や企業内制度（しくみ）は必要でしょうが、一番大切なのは、改善改革が自動的にそして持続的に行われるような社内文化を支える「働く人の気持ち」と考えますので、更にこの旋風（かぜ）を醸成していきたいと考えています。

「働き方改革」も出発点はここにあるのではないのかと考えております。お客様、社員の皆様、そして地域の皆様や行政の皆様等、お力添え頂く全ての方のお声を傾聴し、まだまだ不十分ではありますがしっかりと取り組んで参りたいと思います。

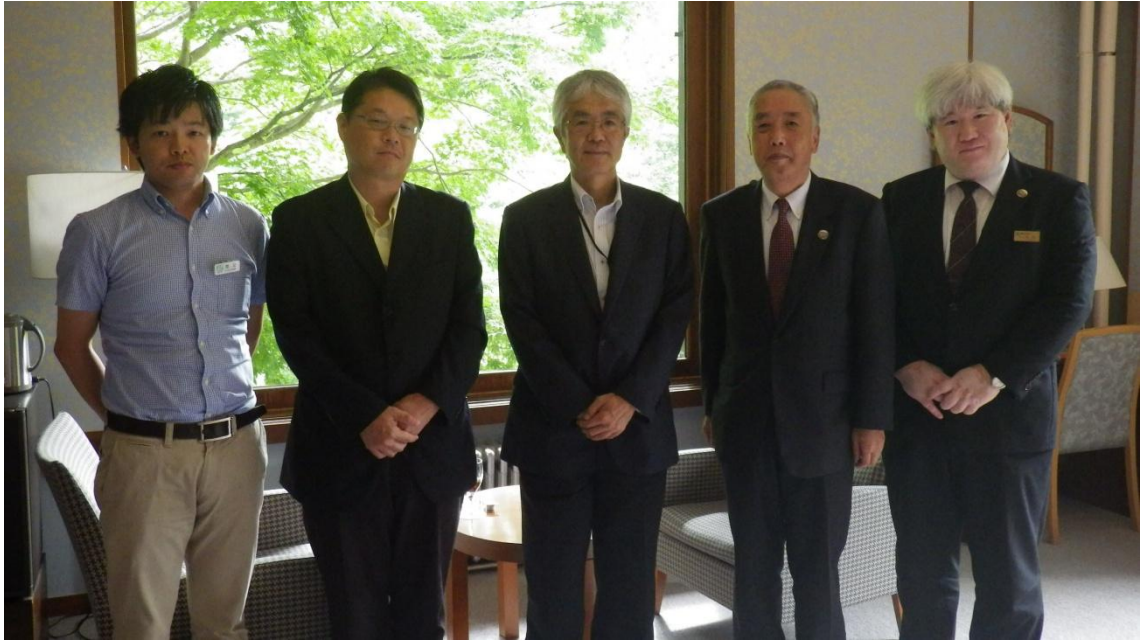
◆堀江栃木労働局長より

少子化による就業人口の変化については、県内においても厳しくなることが予測されます。その様な中、金谷ホテル様においては、「女性の活躍推進」を積極的に進めてこられており感心しております。

優秀な女性への対応においては、男性と同じ競争も辞さないという方や、競争は望まないが確実な仕事をしたいという方等、多様な考え方を受容出来る組織が今後必要とされてくるのではないのでしょうか。

また女性に限らず、金谷イレブんに代表される若手次世代に「経営改善計画」を策定させる等、経営陣が思い切った決断をされたことも大変感心し参考になりました。

「働き方改革」とは、長時間労働の抑制を基本として、仕事もプライベートも充実出来る環境整備を行っていくことです。県民、企業、行政を挙げて、県内に「働き方改革」の機運を醸成して行きたいと考えておりますので、是非、県内のリーディングカンパニーとしてのご協力を今後もお願い致します。



(中央) 堀江栃木労働局長、(中央右隣) 嶺代表取締役社長
(右端) 金谷ホテル株式会社執行役員吉岡総務部長、(中央左隣) 栃木労働局労働基準
部監督課西本課長、(左端) 栃木県産業労働観光部労働政策課渡辺主任、外。